

第5日目 11月8日(月)晴

起床5:00—植村旅館発6:45—十三番札所・大日寺9:45~10:15
—十四番札所・常楽寺10:50~11:20—十五番札所・国分寺11:35~11:50—昼食12:05~13:10—十六番札所・観音寺13:30~14:00—十七番札所・井戸寺14:40~15:10—中鮎喰橋15:35—大鶴旅館16:20—新町温泉—大鶴旅館17:45(泊)

第6日目 11月9日(火)晴

起床5:30—出発7:00—眉山7:15~25—鳴門—淡路島—名古屋
—静岡—長泉町17:30ころ

今回の巡礼も最終日になった。夕べは二階で一人寝だったので気持ち的に楽だった。やっぱり人間だから慣れない方との一週間は、知らない間にストレスが溜まる。

旅館の前で記念撮影をして出発。R20を鮎喰川に沿ってドンドン下って行く。今日は上りがないので楽だ。天気は再び良くなった。



R20を下る



お遍路道標

面白人形

途中に面白人形が沢山あった。釣りをやっている人形の背中がリアルで笑ってしまった

た。ここは人形の町か??

入田市には、JA眉山西部女性部・地産地消の「気に入田（いった）」の直産店があり寄ってみた。畑を大々的にやっている、Sさんは地方野菜に興味津津で盛んに吟味していた。地方に来た時は、購入し地元で育てるそうだ。

しばらく行くと「徳島刑務所」があった。ここは主に暴力団やその関係者を収監しているそうだ。少し前、担当医師の虐待疑惑があった。十三番札所・大日寺に着いた。



大日寺



まだ時間が早かったので参拝者は少ない。車巡礼の夫婦がいた。境内の中央に「しあわせ観音」があった。鮎喰川を一宮橋で渡り、対岸の常楽寺に向かう。寺は近かった。



常楽寺

寺は桜の名所のように春は多くの方が参拝に訪れるようだ。また、境内の大きな木の

股に弘法大師が祀ってあった。



大日寺



すき家

国分寺に向かう。近い。お寺は立派だった。本堂は珍しい二層をなしていた。この形は初めて見るものだ。木造でこれだけ大きなものを建造するのは、相当の労力を要するだろう。

お勤後、昼食とした。近くに適切な場所がなくバスで少し離れた「すき家」を選んだ。この手の店は初めてだったが、まあまあ美味しかった。

午後は、観音寺に向かう。近い。観音寺は住宅街にある比較的小さな寺だった。井戸寺に向かう。この寺が今回の最後の寺になる。それ程遠くなかった。田園地帯の中にある大きく立派な寺。

境内には近所のボランティアの年配者がたむろしていた。説明をしてくれるのだろうか？車イスの参拝者がいた。寺の名の通り境内に「井戸」がある。その昔、大師が錫杖で掘った伝説がある。井戸を覗いて自身の姿を写すと御利益があると言われる。

皆で最後の記念写真を撮る。時間があるのでもう少し歩く。車が多いR30を歩き鮎

喰川を中鮎喰橋で渡り、対岸に出て堤防を南下する。鮎喰川を遡り再び徳島線をまたぎ上鮎喰橋で今回のお遍路は終わった。

バスに迎えを頼み今日の宿「大鶴旅館」に向かった。「大鶴旅館」は大きな宿ではないが、アットホームな感じの宿だった。お遍路さんは宿代を1000-引きでやってくれて有難い。

お風呂はちょっと離れた「新町温泉」。バス運転手が面倒臭がったので歩いて行く。途中には「瀬戸内寂聴の生家」があった。大きなビルで仏具店を営んでいた。寂聴グッズも沢山置いてある。店主は寂聴の姪だから、寂聴のあの特徴的な眼がそっくりで温和な感じだった。また、新町温泉はお遍路さんには無料で対応してくれた。この町はお遍路さんに温かいもてなしで溢れていた。

大鶴旅館に戻り夕食。宿には88歳の大ばあさまがいて、まだ現役で仕事を手伝っていた。数年前までお遍路をしていたそうだ。皆さま、大ばあさまに大きなエネルギーを頂きました。

翌朝、時間があったので眉山に上った。風が冷たかったが、展望台から徳島市が大きかった。割合早い時間に静岡着。第一回目は無事終了した。合掌。



井戸寺

観音寺



大鶴旅館夕食



大ばあさま



大鶴旅館前



徳島市内



眉山頂.